12　　良少将の妻の嘆き　　　　　　　　文法　注意したい訳し方の助動詞②

「法師ⅠにやなりⅡにけむ、身をや投げてＡけむ。法師になりたらば、さてあるとも聞こえなむ。身を投げたるＢなるべし」と思ふに、世中にもいみじうあはれがり、妻子どもは世間の仏神に願をたてまどへど、音にも聞こえず。妻は三人なむありけるを、よろしく思ひけるには、「なほ世にア経じとなむ思ふ」と二人には言ひけり。かぎりなく思ひて子どもなどある妻には、塵ばかりもさるけしきも見せざりけり。このことをかけても言はば、女もいみじと思ふべし、我もえかくなるＣまじき心地しければ、寄りだにイ来で、にはかⅢになむ失せにける。「かくなむ思ふ」とも言はざりけることのいみじきことを思ひつつ泣き入らＤれて、初瀬の御寺にこの妻まうでにけり。

【本文チェック】

①傍線部ア・イの動詞の文中での読みを、（　）にひらがなで書きなさい。

ア（　　　　　　）　イ（　　　　　　）

②　Ａ～Ｄの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を〔　〕に書きなさい。

Ａ〔　　　　　　　・　　　　形〕　Ｂ〔　　　　　・　　　　形〕

Ｃ〔　　　　　　　・　　　　形〕　Ｄ〔　　　　　・　　　　形〕

③Ⅰ～Ⅲの「に」は、Ｘ形容動詞の一部・Ｙ助詞・Ｚ助動詞のどれか。それぞれ【　】に記号で書きなさい。

Ⅰ【　　　　】　Ⅱ【　　　　】　Ⅲ【　　　　】

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　いみじ〔２〕　①非常に

②（　　　　　　）

③ひどい

２　けしき〔５〕　①（　　　　　　）

②考え

③兆候

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　我が心ばへはら音にも聞くらむ。（今昔物語）

ア　返事にも聞い　　　イ　音にも耳を傾け

ウ　うわさにも聞い　　エ　音楽にも造詣が深く

（　　　）

２　酒宴ことさめて、いかがはせむとまどひけり。（徒然草）

ア　途方に暮れ　　イ　あきれはて

ウ　満足し　　　　エ　相談し

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の（　）内の語を、現代語訳に合わせて適当な活用形にして答えよ。

１　とく（参る）なむとおぼす。（源氏物語）

　　「惟光に早く参上してほしい」とお思いになる。

（　　　　　　　）

２　法師は人にうとくて（あり）なむ。（徒然草）

　　法師は人のことに疎遠であるのがきっとよい。

（　　　　　　　）

問４　次の傍線部の説明として適当なものを、後から選べ。

１　さやうのもの、なくてありなむ。（徒然草）

２　山の逃げてれずもあらなむ（伊勢物語）

３　橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋と言ひける。（伊勢物語）

４　今なんぞ罪なくして死なむや。（十訓抄）

ア　強意の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」

イ　動詞の活用語尾＋推量の助動詞「む」

ウ　願望の終助詞「なむ」

エ　強意の係助詞「なむ」

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）　　４（　　　）

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ（後拾遺集）

（　　　　　　　　　　　　　　　）

２　飛ぶ鳥の声も聞こえぬ奥山の深き心を人は知らなむ（古今集）

（　　　　　　　　　　　　　　　）

【探究】表現してみよう

問６　良少将にとっての最愛の妻は、最後に良少将を案じて寺に詣でているが、このときの妻の心中について、直接話法で表現してみよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝へ　イ＝こ

②　Ａ＝過去推量・連体　Ｂ＝断定・連体

　　Ｃ＝打消推量・連体　Ｄ＝自発・連用

③　Ⅰ＝Ｙ　Ⅱ＝Ｚ　Ⅲ＝Ｘ

問１　１＝すばらしい　２＝様子

問２　１＝ウ　２＝ア

問３　１＝参ら　２＝あり

問４　１＝ア　２＝ウ　３＝エ　４＝イ

問５　１＝きっと朽ちるであろう　２＝知ってほしい

問６　観点　妻はこのときも良少将が出家したことをまだ確認しているわけではないので、出家の事実について確定した表現は不適。何も知らせてくれなかったことへの嘆きが、どれほど良少将への恨みと重なっていくかが、解釈の分かれるところである。

【現代語訳】

問２　１　私の気立てはひとりでにうわさにも聞いているだろう。

２　酒宴は興ざめになって、どうしようかと途方に暮れた。

問４　１　そのようなものは、ない方がきっとよいだろう。

２　山の端が逃げて（月を）入れないでほしい。

３　橋を八つ渡してあることによって、八橋と言った。

４　どうして罪もなく（私は）死ぬことになるのだろうか。

問５　１　この恋のために（浮き名が立って）きっと朽ちるであろう我が名が惜しいことだ。

２　飛ぶ鳥の声も聞こえない奥山のような、深い私の心をあの人には知ってほしい（ものだ）。